

2011 年生田緑地ゲンジボタル調査報告

成川秀幸*¹ 新村 治*²

The report of the firefly at Ikuta-Ryokuchi Park in 2011

Hideyuki Narikawa*¹ Osamu Nimura*²

I はじめに

青少年科学館では1983年～1987年・川崎市自然環境調査Ⅰの水
生昆虫調査で生田緑地の谷間の探勝路にゲンジボタルの幼虫が生
息し、5月下旬頃から7月初旬頃まで成虫も多数発生していること
が確認された。以来生田緑地のホタルについて注目し、ピーク時の
みの発生数の確認作業を行い、1993年の青少年科学館紀要で木下
が観察記録を発表している。その後、生田緑地内にはゲンジボタル
を含め7種のホタル、ムネクリイロボタル、カタモンミナミボタル、
ヘイケボタル、オハボタル、スジグロボタル(林1991)、クロマド
ボタル(川田・岩田・高橋・昆虫班1995)が確認されている。

1998年からはゲンジボタル成虫の初見日～終息日までの発生カ
ウント調査をおこなっている。2011年で14年目になる。調査は館
職員と、2002年度からホタル調査員の皆さんが加わった。2011年
の調査結果がまとまったので報告する。

II 調査方法

設定した調査日の19時に青少年科学館に調査者が集合し、19時
30分までに調査者を調査場所に向かわせ、19時30分から20時
までの30分間に目視により発光を確認したホタル数を記録した。調
査者が足りず、調査場所に調査者を張りつけることが出来ないとき
は、30分間に調査場所を巡回し調査した。数人で調査した場合、
個人によりカウント数にばらつきが生じたが、その場で協議し、概
ね平均数を記録した。記録は発光ホタル数の他に調査時の天気を調
査票に記入した。また、調査場所は昨年発生が確認された5ヶ所と、
以前に発生が確認されていたが現在は確認されていない場所の3
ヶ所をくわえ8ヶ所とした。2009年～2010年に調査を行っていた
藤棚の池については、科学館の改築に伴い調査を行うことができな
い状況であったため今年は調査を行っていない。

III 調査期間

生田緑地の成虫初見日は過去5年間(2006年6月6日、2007年
6月9日、2008年6月6日、2009年6月7日、2010年6月10日)
の初見日を考慮し、調査開始日を5月31日からとした。調査終了
日は、過去5年間の終息日(発生数が0と確認出来た日、2006年7
月14日、2007年7月15日、2008年7月20日、2009年7月12日、
2010年7月18日)を考慮し7月15日とした。ただし、成虫発生
が7月15日を過ぎる場合は、それ以降も発生が終息するまで調査
を行うこととした。

IV 調査場所

- ① 駐車場奥
- ② 奥の池

- ③ 奥の池南側谷戸
- ④ 旧岡本谷戸
- ⑤ 科学館奥
- ⑥ マレーゼの谷(戸隠谷戸)
- ⑦ 湿地帯下休耕田(ホタルの里)
- ⑧ 谷間の探勝路(木道)

の8ヶ所

V 調査参加者

新村 治	成川 秀幸	米倉 竜司
國司 眞	武田 健人	菊池 なつみ
小竹 誠	加賀 千加子	高嶋 幸広
後藤 智春		

(10名)

延べ調査者数 42名

VI 調査結果

調査結果は表1。

天気は調査日のもの。

VII まとめ

- ・ 2011年の成虫発生時期は初見日が6月14日、終息日は7月12日であった。初見日は1998年～2010年までの平均日6月6日より8日遅く、終息日は7月12日で同平均日7月14日より2日早かった。
- ・ 初見の場所は6月14日、⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)1、最終確認は7月12日①東口駐車場奥1であった。最近の初見日としては最も遅い記録となった。
- ・ 生田緑地全体の延べ発生数は303匹であった。
- ・ 延べ発生数は①駐車場奥69、⑤科学館奥36、⑥マレーゼの谷1、⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)87、⑧谷間の探勝路114、調査地のすべてで去年に比べ発生数は減少した。
- ・ 各調査場所の1日の最多確認数は、①駐車場奥(19)6月28日、②奥の池(確認されず)、③奥の池南側谷戸(確認されず)、④旧岡本谷戸(確認されず)、⑤科学館奥(12)6月25日、⑥マレーゼの谷(戸隠谷戸)(確認されず)、⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)(30)6月25日、⑧谷間の探勝路(木道)(42)6月25日であった。
- ・ 今年の生田緑地全体での発生数のピークは6月19～28日にかけてだった。
- ・ 2011年も②奥の池、③奥の池南側谷戸、④旧岡本谷戸、⑥マレーゼの谷(戸隠谷戸)ではホタルの発生数は確認できなかつた。

*¹川崎市青少年科学館 *²ホタル調査員

った。

- 2011年の調査および過去の調査から生田緑地のゲンジボタルの発生について概観する。2011年は⑧谷間の探勝路(木道)の延べ発生数が114、2008年の発生数228と比べ50%に減少した。また、例年の傾向として、発生のピーク時から終息日にかけて徐々にホタル発生数が減少していくが、⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)と⑧谷間の探勝路(木道)では今年もピークを過ぎたとたん発生数が半減してしまった。谷間の探勝路と湿地帯下休耕田は隣接している場所である。これらの場所の発生数の半減の原因はわからない。

- ホタルは約7年周期で自然増減を繰り返すと言われている。1999年に生田緑地延べ発生数が1041、その後発生数は減少し、2007年、2008年と増加した。2009年以降は減少に転じている。これは自然の増減であるのか、来年度も引き続き調査を継続していかなければならない。

終わりに、暑くて多忙な中、青少年科学館に立ち寄り、ボランティアとして調査に協力してくださった方々、また調査を支えてくださった科学館スタッフの皆さまに厚く感謝申し上げます。

表1 1999年から2011年までの初見日および終息日一覧表

調査年	初見日	場所	終息日	場所
1999年	6月4日	谷間の探勝路(木道)	7月23日	奥の池
2000年	6月6日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里) ⑧谷間の探勝路(木道)	7月22日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)
2001年	6月3日	⑧谷間の探勝路(木道)	7月10日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)
2002年	6月4日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)	7月14日	⑧谷間の探勝路(木道)
2003年	6月1日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)	7月13日	⑧谷間の探勝路(木道)
2004年	6月5日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里) ⑧谷間の探勝路(木道)	7月1日	①駐車場奥 ⑧谷間の探勝路(木道)
2005年	6月11日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)	7月14日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里) ⑧谷間の探勝路(木道)
2006年	6月6日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)	7月13日	⑧谷間の探勝路(木道)
2007年	6月9日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)	7月8日	①駐車場奥 ⑤科学館奥 ⑧谷間の探勝路(木道)
2008年	6月6日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)	7月17日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里) ⑧谷間の探勝路(木道)
2009年	6月7日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里) ⑧谷間の探勝路(木道)	7月16日	①駐車場奥
2010年	6月10日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里) ⑧谷間の探勝路(木道)	7月18日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)
2011年	6月14日	⑦湿地帯下休耕田(ホタルの里)	7月12日	①駐車場奥

表2 2011年 生田緑地ホタル調査結果表

月	日	曜	天気	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	備考
5	31	火	晴れ	—	—	—	—	—	0	0	0	
6	3	金	晴れ	—	—	—	—	—	0	0	0	
	7	火	曇り	0	0	0	0	0	0	0	0	
	9	木	晴れ	0	0	0	0	0	0	0	0	
	11	土	曇り	0	0	0	0	0	0	0	0	
	14	火	晴れ	0	0	0	0	0	0	1	0	
	15	水	曇り	—	—	—	—	—	—	1	1	
	17	金	曇り	—	—	—	—	—	0	6	1	
	18	土	曇り	1	—	—	—	0	—	—	—	
	19	日	曇り	—	—	—	—	2	—	16	17	
	21	火	晴れ	6	0	0	0	10	0	18	30	
	25	土	曇り	15	0	0	0	12	0	30	42	
	28	火	晴れ	19	0	0	0	5	0	11	17	
	30	木	晴れ	12	—	—	—	2	0	1	3	
7	2	土	晴れ	8	0	0	0	3	—	—	—	
	5	火	晴れ	3	—	—	—	2	0	1	3	
	7	木	晴れ	2	—	—	—	0	0	1	0	
	8	金	曇り	2	0	0	0	0	0	1	0	
	12	火	晴れ	1	0	0	0	0	—	0	0	
	14	木	晴れ	0	0	0	0	0	0	0	0	
	16	土	晴れ	0	0	0	0	0	0	0	0	